タイトル （Title）	所蔵作品展　きものの輝き／漆・木・竹工芸の美 Museum Collection Exhibition Radiance of Kimono／Beauty of Lacquer, Wood and Bamboo Works	
会期	2008 年 12 月 20 日(土)～2009 年 2 月 22 日(日) ＊会期中、一部展示替を行います（1 月 25 日まで前期／1 月 27 日から後期）。	
開館時間	午前 10 時～午後 5 時　＊入館は閉館 30 分前まで	
休館日	毎週月曜日（1 月 12 日は除く）、1 月 13 日(火)、12 月 29 日(月)～1 月 1 日(木)	
主催	東京国立近代美術館	
会場 （アクセス）	**東京国立近代美術館工芸館**　〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園 1-1 Crafts Gallery, The National Museum of Modern Art, Tokyo 東京メトロ東西線「竹橋駅」 1b 出口 徒歩 8 分 東京メトロ東西線/半蔵門線・都営新宿線「九段下駅」 2 番出口 徒歩 12 分	
観覧料	一般 ２００（100）円　大学生 ７０（40）円 高校生以下および 18 歳未満、65 歳以上、キャンパスメンバーズ、MOMAT パスポートをお持ちの方、障害者手帳をお持ちの方とその付添者 1 名は、無料 ＊いずれも消費税込。(　)内は 20 名以上の団体料金。 ＊割引・無料には、学生証、年齢のわかるもの、障害者手帳等の提示が必要です。 観覧の当日に限り、美術館（徒歩 5 分）で開催中の各展覧会料金で、本展もご覧いただくことができます。 「高梨豊　光のフィールドノート」展（企画展ギャラリー）　1 月 20 日～本展最終日 「所蔵作品展　近代日本の美術」（所蔵品ギャラリー）　本展会期中の 1 月 13～19 日以外	
無料観覧日	１月２日(金)・４日(日)、２月１日(日)	
お問合せ先（掲載用）	03-5777-8600　（ハローダイヤル）　または　http://www.momat.go.jp/　（ホームページ）	
イベント	ギャラリートーク	当館研究員によるトーク。 12 月 21 日(日)、1 月 18 日(日)、2 月 8 日(日) 午後 2 時～
	タッチ＆トーク	ボランティアスタッフによるガイド（会場でのトークと、“さわってみようコーナー”とでご案内します）。 毎週水・土曜日 午後 2 時～
	＊いずれも参加無料（要展覧会チケット）、申込不要	
★スペシャルイベント「英語タッチ＆トーク」★ 毎週水・土曜日に開催している「タッチ＆トーク」の英語版を行います。「YOKOSO JAPAN WEEKS 2009」期間に合わせた、本展特別開催（全 2 回予定）です。日本人の方のご参加もお待ちしています！ ～Tour with our English speaking staff～　**‘Touch and Talk’** Participants can take a close look at works of some renowned artists, and view the materials and techniques used in the ‘Touch’ section. The ‘Talk’ part will give interesting information about certain art pieces of the exhibition. →日時・予約方法等の詳細はお問合わせください。		
プレゼント	展覧会をご紹介いただける場合には、**読者プレゼント用招待券**をお渡しできます。	
人間国宝・ 巨匠コーナー	国内外の工芸やデザインを代表する作家の作品を常時紹介するコーナーです。 （テーマ等の詳細は、決まり次第 HP でお知らせします）	

お問合わせ
広報担当　cg-pr@momat.go.jp

きものの輝き

伝統的なフォルムには、長い時間によって磨きだされた洗練の美があります。と同時に、過去から伝わったという固定観念は、対象を古めかしく、現代に生きる私たちとは、何か別種のものであるように見せることもあります。なかでも「きもの」は、戦後、日本人の生活スタイルは大きく様変わりしたその陰に沈みこみそうにさえなりました。しかし、個人作家としての取り組みが進展するなかで、きものを成立させる素材、技法、色、模様がつぶさに吟味され、その結果、現代的で瑞々しい感性に満ちた制作が行われるようになりました。近年、さまざまなシーンできものを着用する人が少しずつ増えているようですが、こうした傾向も単なる懐古趣味を越えて、人々の意識が染織の本質を再認識しはじめたことを示唆するのかもしれません。今回は、きものや着尺、帯など、伝統的な形式に託された艶やかな染織作品の輝きを紹介します。

木村雨山《一越縮緬地花鳥文訪問着》

鈴田照次《紬地木版摺松文着物》

志村ふくみ《紬織着物　湖北残雪（白）》

喜多川平朗《能衣装唐織黒絵段》

『工芸館名品集ー染織』2009年1月刊行予定

現在ご好評いただいている「陶芸」（'07年刊行）に続く第二弾は、「染織」のコレクションを写真と和英の解説文で紹介します。1月の展示替に合わせて、刊行予定です。ご期待ください！

写真・『工芸館名品集ー陶芸』より

漆・木・竹工芸の美

漆、木、そして竹工芸、多くの材を自然から得ているこれらの作品もまた、その美しさが、単純に自然に由来するものとみられることが少なくありません。しかしながら、私たちが目の当たりにするのは作者の意志の下で切り取られた「自然」、周到に整えられた人工の美ともいえるのではないでしょうか。成形や加飾の段階を経て、自然本来の姿とは異質に転化された美の様態をご堪能ください。

音丸耕堂《彫漆薺文茶入》

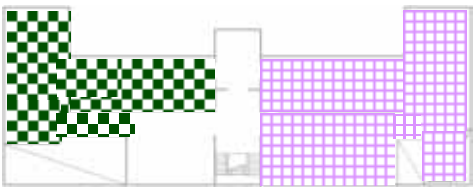
黒田辰秋《赤漆流稜文飾箱》

竹内碧外《秋草重文庫　むさしの》

飯塚琅玕斎《花籃　宝殿》

＊東京国立近代美術館工芸館 2F

「漆・木・竹工芸の美」



「きものの輝き」

年　　月　　日（　）

FAX：03-3211-7783（工芸課）広報担当行>>>

広報用図版請求票

※作品図版は JPG データをご用意しています。その他の形式については、事前にご相談ください。
※展覧会広報にのみご使用ください。著作権保護のため、他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
※掲載見本を広報担当へご寄贈くださいましたら幸いです。

No.	展示パート	キャプション	所蔵
01	「きものの輝き」展示室 1〜3	木村雨山《一越縮緬地花鳥文訪問着》1934 年	東京国立近代美術館
02		鈴田照次《紬地木版摺松文着物》（部分）1972 年	
03		志村ふくみ《紬織着物　湖北残雪（白）》1981 年	
04		喜多川平朗《能衣装唐織黒絵段》1962 年　撮影：堤勝雄	
05	「漆・木・竹工芸の美」展示室 4、5	音丸耕堂《彫漆薺文茶入》1959 年頃	
06		黒田辰秋《赤漆流稜文飾箱》1957 年頃	
07		竹内碧外《秋草重文庫　むさしの》1980 年頃	
08		飯塚琅玕斎《花籃　宝殿》1948 年頃	

ご担当者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　E-MAIL＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

貴社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

出版物・放送番組・サイト名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(http://www.＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)

掲載予定号・発行日／放送・UP 日時＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

PHONE＿＿＿＿（＿＿＿＿）＿＿＿＿　FAX＿＿＿＿（＿＿＿＿）＿＿＿＿

〒

住所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

読者プレゼント用招待券をご希望される場合は ∨ してください。☐

FAX